

[成果情報名] ブドウ「BK シードレス」の房尻を利用した花穂整形による果実形質の向上
[要約] ブドウ「BK シードレス」花房の房尻を利用して花穂整形することで、慣行の房尻を切り詰める花穂整形より果粒重が大きくなるとともに果皮色が向上する。
[キーワード] 花穂整形、果皮色、ジベレリン、BK シードレス、ブドウ
[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・ビワ・落葉果樹研究室
[連絡先] (代表) 0957-55-8740
[区分] 果樹
[分類] 普及
[作成年度] 2023 年度

[背景・ねらい]

県内におけるブドウ栽培は「巨峰」が中心であるが、夏季の高温により着色不良(赤熟れ)が問題となっている。その中で、ブドウ「BK シードレス」は、夏季の高温状態でも着色良好で食味のよい新品種として県内でも導入されている。また、ジベレリン(以下、GA)1 回処理の果粒重は2 回処理と同等で、果皮色および糖度が向上する(長崎県研究成果情報、2019)。しかし、生産現場では「巨峰」より小さい果粒が見受けられる。

そこで、慣行の房尻を切り詰めた花穂整形(以下、慣行整形)ではなく、房尻を残す花穂整形(以下、房尻整形)による果粒肥大および果皮色向上効果について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 果粒重は、房尻整形が慣行整形より大きくなる(表1)。
2. 果皮色カラーチャート値および糖度は、試験年によって差がみられるものの、色度 a^* (赤)は、房尻整形が慣行整形より低く赤味が少ない。なお、酸含量に差はみられない(表1、写真1)。
3. 果房の形は、房尻整形の方が果房の締まり具合がよい(写真1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、H 型露地短梢せん定無核栽培のブドウ「BK シードレス」6 年生樹(2022 年産試験)を供試樹とし、花穂整形は図1のとおり、GA 処理の方法は下表のとおりに行った。なお、果実形質および品質調査は、下表の収穫日に合計15 果房(1 果房当たり果粒重は20 粒、果皮色カラーチャート値は15 粒、糖度および酸含量は5 粒混合搾汁)を供試して、その平均値を求めた。

調査年	試験区	花穂整形	GA1回目(満開1~2日後)		摘粒	収穫調査日
			処理日	濃度		
2022年	房尻整形 慣行整形	5/16-17	5/19or24	GA100ppm	6/7	8/9,16
2023年	房尻整形 慣行整形	5/10-12	5/19	GA100ppm	6/12	8/16,21

[具体的データ]

表1 ブドウ「BK シードレス」花穂整形の違いによる果実形質および品質の比較

試験年	処理区	果房重 (g)	果粒数 (果)	果粒重 (g)	果皮色 カラーチャート ^y	色度 a*(赤)	糖度 (brix)	酸含量 (g/100ml)
2022	房尻整形	413.6	29.2	14.4	9.5	5.66	21.4	0.65
	慣行整形	390.3	29.5	13.2	9.3	6.88	21.1	0.67
	有意差 ^z	n.s.	n.s.	**	n.s.	**	*	n.s.
2023	房尻整形	329.7	27.0	12.1	8.9	5.99	21.5	0.62
	慣行整形	312.8	29.2	10.8	8.4	6.65	21.2	0.61
	有意差 ^z	n.s.	n.s.	*	*	**	n.s.	n.s.

^z果皮色カラーチャートはマン・ホイットニーのU検定、その他はt検定により、*は5%水準、**は1%水準で有意差あり、n.s.は有意差無し

^yブドウ赤・紫・黒色系カラーチャート



写真1 収穫時(2023/8/16撮影)

左: 房尻整形、右: 慣行整形

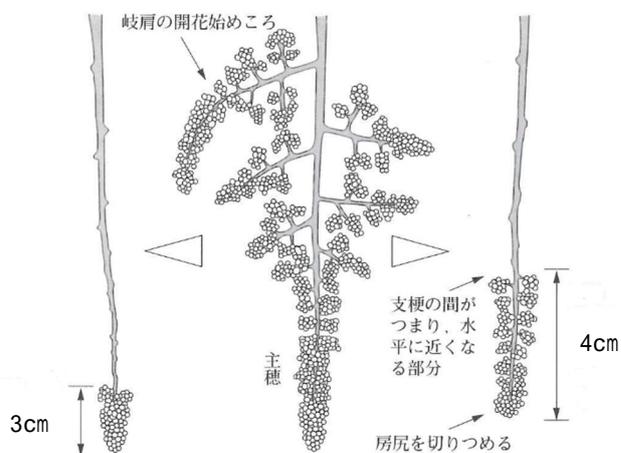


図1 花穂整形の方法

左: 房尻整形、右: 慣行整形
ブドウの新短梢栽培(農文協)より

[その他]

研究課題名: 特定果樹の栽培に関する試験

予算区分: 県単

研究期間: 2022~2023年度

研究担当者: 古賀敬一